

テトリライトの 試作結果

雪印種苗KK千葉研究農場

薄 巖

生育・特性

テトリライトはペレニアルライグラスとアニュアルライグラスと交配し、倍数化したものであり、その特性は抜群に優れております。マンモスイタリヤンのように茎葉巨大型であり、第1表に見られるように、ペレニアル、Hワンライグラスのように越冬永続性があり、春播きでも秋播きでも生育良好であります。出穂期は、マンモスペレニアルより早く、Hワンライグラスよりやや晩い。草姿はHワンライグラスに似てやや立性で繁茂性があり、越冬状態が良く翌春の回復も早く良好であります。

第1表 生育状況 (刈取時)

(A) 春播の場合

項目 刈取月日	S 46 春播										1 年目										S 46 春播 2 年目									
	生 育					生 育 相					生 育					生 育 相					生 育					生 育 相				
	6.8	7.1	7.31	9.16	10.16	11.19	7.1	7.31	9.16	10.16	3.28 4.6	4.20 4.28	5.19	6.7	6.27	9.13	10.19	11.21	4.20 4.28	5.19	6.7	6.27								
テトリライト	良好	良好	良好	良	良好	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	良好	良好	良好	良	良	良	良好	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前								
マンモスペレニアル	良	良	良	中	中	中	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	良	良好	良好	良	良	良	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前								
ペレニアル(普)	良	良	良	中	中	中	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	良	良好	良好	中	中	中	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前								
Hワンライグラス	良	良	良	中	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	良好	良好	良	良	良	中	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前								

注) 2年目の調査で、1-2番刈りの月日が早いものは、テトリライトとHワンライグラスである。

第2表 生育状況 (刈取時)

(B) 秋播の場合

項目 刈取月日	生 育								生 育 相				
	3.28	4.20	5.19	6.6	6.27	9.14	10.19	11.21	3.28	5.19	6.6	6.27	9.14
テトリライト	良好	良好	良好	良好	良	良	良好	良好	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	開花期
マンモスペレニアル	良	良好	良好	良好	良	良	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前
ペレニアル(普)	良	良	良	良	中	中	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	開花期	出穂前
Hワンライグラス	良好	良	良	良好	良	良	良	良	出穂前	出穂前	出穂前	出穂前	開花期

草 丈

第3表に示した刈取時の草丈をみますと、テトリライトの特色の一つである伸長の早さと旺盛な再生力の強さがわかります。しかし、再生力が発揮されるのは、早播き、適期播きをした場合であり、晩播きではその長所が十分に出せません。すなわち、高く(長く)伸ばすべき草ではなく短草として用うべき草です。したがって多回刈りが有利であり、その上永続性があり数多く何回も刈

れることは青刈り連続給与に当たって絶対的な強みとなります。

第3表 草丈 (刈取時) (S46年播種)

品 種 名	春 播						秋 播						計	比率				
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6			7	8		
テトリライト	76	71	73	67	68	58	413	126%	56	71	80	60	78	68	65	55	533	121%
マンモスペレニアル	64	61	60	64	51	44	344	105	36	55	69	49	53	47	53	41	403	91
ペレニアル(普)	58	56	52	44	44	36	290	88	38	54	62	46	59	39	43	36	377	85
Hワンライグラス	64	58	58	49	54	46	329	100	59	58	67	55	68	38	51	45	441	100

耐病性と夏枯れ

牧草の中でライグラス類は全般に春の生育が早く、再生力もよく多収が得られますが、暖地においては夏期高温時は生育も衰え病害の発生も多く見られるようになり、いわゆる、夏枯れ状態となります。

第4表で耐病性と夏枯れ状態をみますと、他のライグラスに比較してテトリライトは春播き秋播きでも耐暑性強く、全体に病害が少なく、夏枯れも極めて少なく、耐暑、耐病性強と判定できます。

生草収量

第5, 6, 7表に見られるように10a当たりの生草収量は、条播の場合、春播き(第6表)で1年目8.5t, 2年目14t, 2ヵ年合計では22.6tとなり、Hワンライグラスに比して134%の増収、また、秋播き1年目(第7表)でも13.4tで、134%の増収

第4表 耐病性と夏枯れ (S46年播種)

品 種 名	春播1年目		春播2年目		秋播1年目									
	病害	夏枯	病害	夏枯	病害	夏枯								
	7.31	9.4	10.16	9.4	5.7	9.13	10.19	11.21	8.30	8.30	9.14	10.19	11.21	8.30
テトリライト	少	少	少	少	中	少	少	中	中	少	少	少	少	少
マンモスペレニアル	少	多	少	中	少	少	中	多	多	少	少	少	少	少
ペレニアル(普)	中	多	中	中	極多	極多	中	極多	極多	極多	極多	極多	中	中
Hワンライグラス	多	多	中	多	少	多	中	多	多	多	多	多	少	多

となった。散播の場合(第5表)は1年目の収量が多く、17t、2年目10t、合計27tとなり、春播きでも年間10

第5表 生草収量 (S43年秋播)

(1) 1年目の成績 (10a当たりkg)

刈取月日	4.2	4.12	4.29	5.27	6.20	7.11	7.15	7.28	10.3	11.7	刈取回数	計
テトリライト	2,150	-	4,000	2,160	2,380	1,000	-	950	2,780	2,010	8	17,170
マンモス ベレニアル	-	2,120	2,770	2,890	2,260	-	1,330	-	2,050	1,500	7	14,920

(2) 2年目の成績

刈取月日	5.2	5.21	6.20	7.13	10.22	計	2カ年合計
テトリライト	2,870	2,160	1,880	1,350	1,980	10,240	27,410
マンモス ベレニアル	1,490	1,920	2,490	2,000	1,700	9,600	24,520

注) 1) 播種期……10月2日
2) 播種方法……10a当たり2.5kg散播
3) 施肥量(10a当たりkg) 基肥……草地用尿素化成2号(6-11-11)100
溶糞50 石灰300
追肥……(44年) 尿素化成2号50 尿素40(4回に分施)
(45年) 尿素化成2号90 尿素45(3回に分施)

第6表 生草収量(春条播)

(1) 1年目の成績 (10a当たりkg) (S46年)

刈取月日	(1) 6.8	(2) 7.1	(3) 7.31	(4) 9.16	(5) 10.16	(6) 11.19	計	収比%
テトリライト	1,820	1,880	1,580	1,035	1,220	970	8,505	155
マンモスベレニアル	1,310	1,570	1,110	550	830	705	6,075	110
ベレニアル(普)	1,290	1,520	990	320	430	400	4,950	90
Hワンライグラス	1,580	1,400	850	390	600	680	5,500	100

(2) 2年目の成績 (S47年)

刈取月日	(1) 3.28 (4.6)	(2) 4.20 (4.28)	(3) 5.19	(4) 6.7	(5) 6.27	(6) 9.13	(7) 10.19	(8) 11.21	計	収比%	2カ年合計	収比%
テトリライト	2,650	2,310	2,618	1,035	1,493	1,380	1,530	1,144	14,160	124	22,665	134
マンモスベレニアル	1,658	2,423	2,175	1,080	1,170	863	1,043	735	11,147	98	17,222	102
ベレニアル(普)	1,913	1,965	1,133	728	1,020	615	863	683	8,920	78	13,870	80
Hワンライグラス	2,510	1,673	2,063	1,103	1,448	728	930	975	11,430	100	16,930	102

注) (1)と(2)の刈取月日()内はマンモスベレニアルとベレニアル(普)
1) 播種期……4月13日
2) 播種方法……10a当たり2.5kg 畦幅60cm条播
3) 施肥量(10a当たりkg) 基肥……草地用尿素化成2号(6-11-11)120 苦土石灰300
追肥……(46年) 尿素化成2号100(最終刈取時)
尿素50(5回に分施)
(47年) 尿素70(7回に分施) 塩加20(3回に分施)

第7表 生草収量(秋条播)

1年目の成績(10a当たりkg) (S47年)

刈取月日	(1) 3.28	(2) 4.20	(3) 5.19	(4) 6.6	(5) 6.27	(6) 9.14	(7) 10.19	(8) 11.21	計	収比%
テトリライト	2,610	2,380	2,420	930	1,390	1,240	1,340	1,090	13,400	134
マンモスベレニアル	1,040	2,030	2,570	850	1,290	830	960	810	10,380	104
ベレニアル(普)	1,120	1,620	1,630	570	1,210	520	780	540	7,990	80
Hワンライグラス	2,510	1,450	1,520	750	1,220	760	890	890	9,990	100

注) 1) 播種期……9月28日
2) 播種方法……10a当たり2.5kg 畦幅60cm条播
3) 施肥量(10a当たりkg) 基肥……草地用尿素化成2号(6-11-11)120 苦土石灰300
追肥……尿素70(7回に分施)
塩加20(3回に分施)

～13tぐらいの生草収量が見込まれます。テトリライトは、ベレニアル、Hワンライグラスに比較しますと、夏期収量が高く、春、秋播とも供試4品種中最高を示し、永続多収性が確認できました。

暖地における

テトリライトの栽培と利用法

(1) 栽培法

イ) 播種期はイタリアンと同じでよく、春播きは3月中旬～5月上旬、秋播きは9月上旬～11月上旬まで播種できますが、刈取利用回数と収量を高めるためには、春播きの場合は地温の上昇する3月下旬～4月上旬頃が適期、秋播きの場合は9月いっぱいが多収栽培の適期といえます。

ロ) 播種量は単播の場合10a当たり2～4kg、混播草地の場合は混播する草種の組み合わせにもよりますが、0.3～0.5kg程度が適量でありましょう。

ハ) 播き方は、平播きで全面散播すると株張りがよく、土地の利用率も高いので畦立条播より収量はあがります。

ニ) 施肥量は他のライグラス栽培と同様でよいと思わ

れますが、テトリライトは再生が旺盛で何回も刈り取るので土壌から多量の養分を吸い上げます。

とくに、窒素、加里、珪酸の吸収量は著しく多いため、施肥によって増収効果がみられます。したがって、吸収容易な肥料を必要な時期に与えることが大切であります。

(2) 利用法

イ) 青刈り多収穫を目的とした場合には、年内

から5月頃までの栄養成長期は草丈が50～70cm台ぐらいまで刈り取ります。穂が出はじめると分けつが劣ってくるので、倒伏しない程度まで伸ばして刈り取ってもよいでしょう。

ロ) 刈り取り時の高さはあまり低過ぎると次の伸びがおそいので、節間が伸び始めるころまでは、地上5cm以下にならないように気をつけることです。

ハ) 青刈り、または、サイレージ用としても品質がよく、家畜嗜好性も極めて良く、永続性もあるので多面的に利用し得る草種と思われる。